

第133号

# 梵珠だより

撮影：ミズバショウの道

トピック

サカヨウ

高橋・佐夫（青森自然圧研究会）

美しい小さなラン タジバナ

長尾 千穂（津軽植物の会）

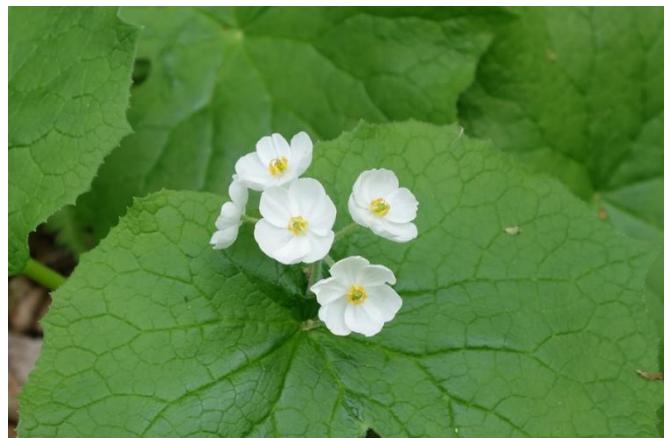
エゾヨシメ（ヤマムカガ科）

鳴海 雷美子（津軽昆虫同好会）





まだ若い果実  
(2015年6月11日)



花を咲かせたサンカヨウ  
(2020年5月12日)

サンカヨウの花にはじりぱなが清楚で、他とは迎合しないような守もいがある。それは、サンカヨウが生えている場所が、どちらかといふと、やや湿った林床である」とからやくるのかも知れない。高山植物の部類に入れている植物図鑑や野生植物の案内書もあるが、青森県で暮らしている者からすると、そのような文章に、まさかと思つてしまつ。きっと、山登りをしないと逢えない植物に命あれてらるからなのだわつ。確かに、直径2mmほどの白い花を咲かせ、時には群生する様子は、山登りをする人々にとり印象強い。息を切りせながらも、よひやくやつてきた林の中で、6枚の白い花びら、そして中央の雌しべを囲んで並ぶ6本の雄しべについている黄色い花粉。それらが、ひょひしりと挨拶をしているように見えでしまつ。

初夏、梵珠山の観察路を歩いてこねと、といひじうれでサンカヨウの花に出合つ。近くにはオクトリカブトが生えていたそつた、湿り氣のある林床である。梵珠山で最もよくサンカヨウに会えるのは寺屋敷広場の西側縁である。そこは、ふれあいセンターの職員による講義の場所にもなつてゐるが、サンカヨウは対象種にならず、やつべつは、今でも変わらない

サンカヨウの花にはじりぱなが清楚で、他とは迎合しないような守もいがある。それは、サンカヨウが生えている場所が、どちらかといふと、やや湿った林床である」とからやくるのかも知れない。高山植物の部類に入れている植物図鑑や野生植物の案内書もあるが、青森県で暮らしている者からすると、そのような文章に、まさかと思つてしまつ。きっと、山登りをしないと逢えない植物に命あれてらるからなのだわつ。確かに、直径2mmほどの白い花を咲かせ、時には群生する様子は、山登りをする人々にとり印象強い。息を切りせながらも、よひやくやつてきた林の中で、6枚の白い花びら、そして中央の雌しべを囲んで並ぶ6本の雄しべについている黄色い花粉。それらが、ひょひしりと挨拶をしているように見えでしまつ。

花が終わり、寒りの秋。その頃のサンカヨウにはまた大きな変化が訪れる。サンカヨウの果実は直径1~1.5mmほどの橢円形状。果実の表面は濃い紫色で、粉を吹いてこるよつて見える。触ると柔らかく、ぷよぷよしてこね。口に含むと結構ジコーシーで甘酸っぱい。今はやらないが、植物を覚えようとしていた頃は、味も植物を区別する大きな武器だと思いながら、いろいろなものを口にしていた気がする。要するに、まずは植物を五感でどうみるのが基本だという立場だったが、それが、今でも変わらない

残されるから安心だ。

じうれで、長い間、白だった花びらがスケスケになつてくる。花期の終わりと思つていていたが、それは間違いで、花びらが濡れたときの変化だ。そして、そのような変化が、サンカヨウの特徴の一つでもあるといふ。それはつい最近知ったことで、そういえば、スケスケの花びりに出会うのは、雨が降つていいとき、あるいは雨があがつたときなどがほとんじだつた。確か、スケスケでも、雄しべには花粉が見えていたことがあった。花期の終わるとの判断は早とちりだったのだ。

美しい小花な「ン」 ネジバナ [捩花] (別名 モジズク) 津軽植物の会 長尾キコ

日本各地の田畠たりのよご生や草地に生けないほどの美しいである。唇弁は田へ半えぬ多年草。地中に太くて白い肉質の根透明で、縁は纖細なつぶらで飾られてる。がある。

ネジバナの実は長さ約3cmほどの紡錘形の約3cm、高さ10~30cm位の花穂で、中になんと数万個もの種子がぎっしり地面にはりついた葉の間から立ち、その詰まつてる。

上部に小さな淡紅色の花が一つずつ並んでついてる。その並び方は花の輪になりせん。仲間を共生菌としての助けを借りて芽を出状にねじれている。ネジバナとはまつたくそのものの呼びの名である。

「菌」と呼んでる。

花穂のねじれは一定ではない。右巻・左巻があり巻く向きは左右ほぼ同じだとい。ピッチも緩急もあり、同じ株から出る花穂の中にも右巻左巻が混じっているのがあり美におもしろい。

花穂のねじれは一定ではない。右巻・左巻があり巻く向きは左右ほぼ同じだとい。ピッチも緩急もあり、同じ株から出る花穂の中にも右巻左巻が混じっているのがあり美におもしろい。



ネジバナ



シロモジズリ  
(シロネジバナ)



エゾヨツメ♀



エゾヨツメ  
幼虫十卵

Hソコシメ (ヤママコガ科) 津軽昆虫同好会 鳴海富美子

和名は最初に北海道で発見されたので「エゾ」、4個の大きな眼状紋があるので「コヅメ」と名づけられた。以前、春に1頭のガがネットに入ったことがあった。ヤママコガ科に属する力だが、この仲間は年1回秋に出現する。そして大きくなる時期にこんなに小さなヤママコガの仲間を見たのは初めてだったので驚いた。これが「エゾヨシメ」であった。

メスですぐに産卵し、赤褐色で「クギボウ」を押しつぶしたような形をしたつやつやした卵を産んだ。まもなく幼虫が孵化したが、5本の長い突起のあるかわいい姿をしていた。この突起は成長するにつれて短くなり、終齢幼虫になるとすっかり無くなる。その後、知り合いかりHソコシメの終齢幼虫の写真がメールで送られてきたことがあった。如前の間に合わせであったが、きれいな緑色をしていた。この時の幼虫には食草がはつきりしないまま様々な広葉樹の

和名は最初に北海道で発見されたので「エゾ」、4個の大きな眼状紋があるので「コヅメ」と名づけられた。以前、春に1頭のガがネットに入ったことがあった。ヤママコガ科に属する力だが、この仲間は年1回秋に出現する。そして大きくなる時期にこんなに小さなヤママコガの仲間を見たのは初めてだったので驚いた。これが「エゾヨシメ」であった。

ヤママコガ科の成虫は口器が退化して何も食べず、幼虫時代に摂取した栄養を使って活動し、交尾して産卵すると死んでしまう。10日程の命である。

メスですぐに産卵し、赤褐色で「クギボウ」を押しつぶしたような形をしたつやつやした卵を産んだ。まもなく幼虫が孵化したが、5本の長い突起のあるかわいい姿をしていた。この突起は成長するにつれて短くなり、終齢幼虫になるとすっかり無くなる。その後、知り合いかりHソコシメの終齢幼虫の写真がメールで送られてきたことがあった。如前の間に合わせであったが、きれいな緑色をしていた。この時の幼虫には食草がはつきりしないまま様々な広葉樹の

葉をかみしみたが、どれも食べずに餓死してしまった。後に食草はハンノキ・ブナ・クワ・カシワなどの広葉樹であることを知ったが、その時に何の葉をかみたかは記録していない。

葉をかみしみたが、どれも食べずに餓死してしまった。後に食草はハンノキ・ブナ・クワ・カシワなどの広葉樹であることを知ったが、その時に何の葉をかみたかは記録していない。

# ～イベントレポート～

## ● センター開設記念行事「黒森山登山」

7月5日（土）



## ● 夏休みスペシャル・クラフト体験

7月19日（土）～8月19日（金）



## ● 秋の梵珠トレッキング

～アカゲラの道から半沢ルートを巡る～

9月28日（日）

## ● 自然ふれあいファミリーデー

7月13日（土）



## ● 初級トレッキング教室 in 梵珠山

8月24日（金）



イメージキャラクター  
梵太くん

# ～これから観察できるもの～

(前年度の観察記録参照)

	10月前半	10月後半	11月前半	11月後半	12月前半	12月後半
植物	アキグミ（実） ノコンギク	カエデ類紅葉 コマユミ（実）	ノコンギク チゴユリ（実）	ホツツジ（実） ムラサキシキブ（実）		
鳥類	エナガ トラツグミ	ニュウナイスズメ ヤマシギ	アトリ ルリビタキ	キクイタダキ イカル	マヒワ エナガ	アオシギ クマタカ
その他	キヌガサタケ アナノベニテングダケ	オオルリボシヤンマ フユシャクガ	オツネントンボ カメムシ類	梵珠山初冠雪	動物の雪上の足跡 カモシカ、リス、テン、キツネなど	